

## 2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 2 月 10 日作成)

委員会名	風荷重小委員会	主 査 名：田村幸雄
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：石山祐二
設 置 期 間	2002 年 4 月 ～ 2006 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築物荷重指針案の検討と試設計等の実施	
委員構成 (委員名 (所属))	田村幸雄 (東京工芸大学), 浅見豊 (大成建設), 大熊武司 (神奈川大学), 植松康 (東北大学), 上田宏 (千葉工業大学), 岡田恒 (建築研究所), 河井宏允 (京都大学), 川口彰久 (大林組), 川端三朗 (日本板硝子 D&C システム), 近藤宏二 (鹿島建設), 谷池義人 (大阪市立大学), 田村哲郎 (東京工業大学), 中村修 (風工学研究所), 日比一喜 (清水建設), 丸川比佐夫 (泉創建エンジニアリング)	
設置 WG (WG 名：目的)	設計風速WG：設計風速の算定方の検討, 風力係数・風圧係数WG：風圧, 風力データベースの整理, 応答WG：各種ガスト影響係数の検討, 流体計算WG：風荷重算定のためのCFD技術の検討	
2004 年度予算	340,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	風荷重小委員会は、建築物荷重指針の講習会前の 6/29 (11 人) 1 回、講習会後の 10/26 (10 人), 12/14 (8 人) の 2 回、合計 3 回開催された。昨年度で原稿はほぼ校了しており、講習会前は、編集作業に伴う最終的なチェック、講習会の準備等を行った。講習会後は、風荷重指針英文化WGおよび風荷重指針ソフト化WGの立ち上げ、活動内容の審議、風荷重指針への質問対応等を行った。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>建築物荷重指針の第 6 章・風荷重の本文、解説の最終チェックを行い、無事 9 月に刊行された。刊行と同時に開催された建築物荷重指針講習会での講習内容の整理、ppt の調整などにより、全国で設計者の理解を助ける分かり易い講習を全国で行うことができた。</p> <p>設計者が間違いなく使いこなせるように風荷重指針のソフト化を進める作業がスタートした。また、日本の技術者が海外ジョブを行う際の手助け、あるいは日本の耐風設計技術の世界への普及を図るため、風荷重指針の英文化する作業を開始した。</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>今年度の所期の目標は、ほぼ達成された。</p>
その他評価すべき事項	設計者への配慮、国際貢献などへの寄与